

道博協ニュース 第130号 (2022年3月17日発行)

2021年度「ミュージアムマネジメント研修会を開催しました」

令和3年10月26日(火)と27日(水)、函館市中央図書館視聴覚ホールにて2021(令和3)年度北海道博物館協会ミュージアムマネジメント研修会を開催しました。

1日目は、17の施設・団体、総勢21名が参加しました。本研修会のテーマを「インターネットでの情報公開と著作権」とし、近年のインターネットを通じた博物館施設等の情報公開が求められる中で、著作権法を侵害せず適切な公開をするにはどのような手段をとるべきなのか、様々な事例を交えて紹介されました。

はじめに、厚沢部町役場の石井淳平氏による「博物館活動における情報公開と問題点」が講演されました。著作権の性質と著作権法がどのような法律かを、過去の著作権に係る訴訟を例に解説しました。

続いて出席者から挙げられた疑問に対し、類例と著作権法に基づき、意見交換が行われました。オブザーバーとして石井淳平氏、奥野進氏(市立函館博物館)、大谷茂之氏(八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館)、柳沢弥生氏(北海道立函館美術館)が登壇しました。中でも、著作権と密接な関係にある美術資料を取り扱う北海道立函館美術館の事例紹介は、とても参考になりました。

一部例外はありますが、原則として個人の場合死後70年、団体の場合公表から70年の

作品は、著作権で保護されます。公開したい資料が、いつ頃・誰によって作成されたものなのかをできる限り抑えることで、資料を公開する際の疑問解決につながるかと思えます。

2日目は、五稜郭タワー・北海道立函館美術館の2カ所で見学を行い、13名が参加しました。北海道立函館美術館では、前日の研修を踏まえて、美術館の著作権を考慮したポスター作りや展示方法の注意点を伺いました。

本研修会では、博物館活動を行うにあたり情報公開をするうえで、役立つ知識を得ることができました。



意見交換の様子

[旧檜山爾志郡役所(江差町郷土資料館)
学芸員 小峰 彩椰]

道央地区博物館等連絡協議会 NEWS

沼田町化石館の紹介

沼田町は、新生代に生息していた大型のホタテであるタカハシホタテと、鯨類やカイギュウ類をはじめとする海生哺乳類の化石産出地として知られています。沼田町化石館は、町内で発見される化石と化石産出地の保護、保全を主な目的とし、1999年に設置されました。2008年には、キャン

プ場と温泉宿泊施設に隣接した場所に、体験メニューの提供に特化した「化石体験館」が新設され、夏季に実施される化石の模擬発掘体験や化石採取会をとおして、町民だけでなく観光客の利用も年々増加しています。

当館の特色のひとつは、化石の展示施設に加えて、町内や近隣の市町村で新たに発見された化石のクリーニング作業やレプリカ作製作業を行う「レプリカ工房」を常設していることがあげられます。化石体験館で展示されている化石レプリカや



町内から発見された化石を展示する
沼田町化石体験館

復元骨格標本の大半は、レプリカ工房にて地元のスタッフにより作製と組み立てが行われたものです。レプリカ工房の活動は展示物の作製にとどまらず、2016年には当館の所蔵する沼田町産の鯨類

化石について、レプリカを用いてベルギー王立自然史研究所との標本交換を行うなど、国際的な学術交流も精神的に行っています。

現在、沼田町化石館ではレプリカ工房を軸として、2018年に道の天然記念物指定を受けたヌマタネズミイルカの新たな復元骨格の作製に取り組んでいます。ヌマタネズミイルカは町内で発見された、約400万年前の、世界で最も保存状態が良いネズミイルカ科の化石です。新たな骨格の作製にあたり、化石体験館で長年展示していた既存の復元骨格について約4年かけて大幅に修正を加えました。大きく変化したこの復元骨格は、2022年の3月に完成し、同年のゴールデンウィークには復元骨格完成を記念して一般公開と共に講演会の実施を予定しております。この機会にぜひご覧ください。

[沼田町化石館 学芸員 長野 あかね]

道南ブロック博物館施設等連絡協議会 NEWS

旧 JR 江差線の展示を新設

旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）では、令和3年8月13日（金）から施設内の一室を「旧江差駅資料展示室」として公開しています。

江差線は、大正2年（1913）に五稜郭駅（函館市）～上磯駅（北斗市）の開業に始まり、その後延伸工事が続けられ、昭和11年（1936）の湯ノ岱駅（上ノ国町）～江差駅（江差町）の開業で全通しました。江差線は、長らく地域住民の交通や貨物移送の手段として活躍をしましたが、利用者の減少により平成26年（2014）に廃止となってしまいました。

その後江差町は、平成30年（2018）から江差駅があった場所近くの空き店舗を活用して「旧江差駅資料展示館・地域交流館」を開設し、旧 JR 江差線に関する資料を展示していましたが、旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）の展示充実を図るため、この記事で紹介する展示を新設することとなりました。

主な展示資料は、江差線廃線時に JR 北海道から寄贈していただいた資料です。江差駅舎の入口上部に掲げられていた「江差駅」と記されている大きな看板、江差線のレール、江差駅のホームにあった駅名標、最終運行日の車両に付け

てあった「さようなら江差線」と記されたヘッドマークなどは、江差線の歴史を説明するパネルとともに壁面に大きく展示しています。また、江差線廃止の日を迎えるまでに、JR 北海道が作成した記念切手、江差町や地域が作成した様々なグッズなども展示しています。さらに、大勢の町民に迎えられながら、江差線の最終列車が江差駅に入っている様子を映像で流しています。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



「旧江差駅資料展示室」の内部

[旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館）
学芸員 宮原 浩]

日胆地区博物館等連絡協議会 NEWS

身近な博物館利用を目指して～

『日胆博物館 MAP』改訂版できあがる

日胆地区博物館等連絡協議会では、博物館や郷土資料館、美術館、科学館などを身近に感じてもらうために『日胆博物館 MAP』をつくっています。

近年、日胆地区でも新しい博物館がオープンしていることから、このたび改訂版を作成しました。情報掲載館は以下のとおりです。

○胆振管内 (18 館)

洞爺湖町入江・高砂貝塚館、だて歴史文化ミュージアム、室蘭市民俗資料館、登別市郷土資料館、登別市ネイチャーセンターふおれすと鉱山、のぼりべつ文化交流館カント・レラ、のぼりべつクマ牧場ヒグマ博物館、仙台藩白老元陣屋資料館、しらいおいオル事務所チキサニ、国立アイヌ民族博物館、苫小牧市科学センター、苫小牧市美術博物館、勇武津資料館、ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター、早来郷土資料館、安平町鉄道資料館、厚真町軽舞遺跡調査整理事務所、むかわ町穂別博物館

○日高管内 (15 館)

日高山脈博物館、日高町立日高図書館郷土資料館、日高町立門別図書館郷土資料館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、沙流川歴史館、新冠町郷土資料館、新ひだか町博物館、新ひだか町アイヌ民俗資料館、浦河町立郷土博物館、様似郷土館、三平皿・古民具の館、アポイ岳ジオパークビジターセンター、えりも町郷土資料館、襟裳岬風の館

その他、協議会加盟館以外の館もマップ上に掲載しています。この MAP は日胆地区の各館に設置していますので、ぜひ多くの方に活用してもらいたいです。



[新冠町郷土資料館 新川 剛生]

道北地区博物館等連絡協議会 NEWS

コロナ禍にできる博物館活動

2020年1月に日本で新型コロナウイルス感染症患者が出てから、2022年2月現在まで、新型コロナウイルス感染症の影響は続いている。コロナ禍において、様々な博物館活動が制限されてきた。多くの館と同様に、当館では緊急事態宣言中は臨時休館の処置がとられ、大勢が集まる屋内の体験講座などはすべて中止となった。

しかし、コロナ禍だからこそできる博物館活動を模索し、実施してきた2年間でもあった。その中でも当館における大きな2つの動きが、SNSを活用した情報発信とオンライン授業の実施であった。

現代では、多くの人が活用するSNSを用いた情報発信は、臨時休館中でもおこなうことができる教育普及活動として大いに役立った。当館では通常休館日以外は毎日更新を目指し、展示や所蔵資料の紹介、博物館の活動報告、町内の自然や歴史

の紹介を主に行ってきた。そこでは、遠地に住みながらも当館の活動を応援してくれている方々と、メッセージを通してやりとりすることができた。

オンライン授業では、館内にいながら地元の学校だけでなく、道外の学校に向けた講座を行った。当館の職員に加えて、別の館の学芸員も参加するなど、オンラインだからこそできる講座となった。また、現地へ行くという時間的なコストなども削減できたことにより、他の事業への負担を軽減したうえで、学習支援等を行うことができた。

博物館の利用者に向けた活動だけでなく、学芸員などの職員の活動にも様々な変化があった。多くの施設や組織で、会議や研修会などもオンラインで行われるようになった。そのため、今までは事業の関係等で行けなかった遠地で行われる会議や研修会に気軽に参加ができるようになった。現地に行って対面でなければできない研修会等もあるが、交通の便が良くない地域に住む我々にとってはより多くの研修会等に参加することができた。

この2年間は、コロナ禍だからという理由で今まで行ってきた事業の開催をあきらめるのではなく、「コロナ禍でもできることは何か？」というのを模索し、考えさせられた2年間であった。コロナ禍に博物館ができるイベントや教育普及の実施について、創意工夫をしてきたことは、状

況が落ち着いた後の博物館活動にも大いに役立てていくことができていると感じている。

[オホーツクミュージアムえさし
学芸員 立石 淑恵]

オホーツク管内博物館連絡協議会 NEWS

オホーツク管内博物館連絡協議会研修会

「博物館法改正と全国博物館大会の報告」
を開催しました。

オホーツク管内博物館連絡協議会は、令和4年2月18日(金)、「博物館法改正と全国博物館大会の報告」と題して研修会を行いました。会場は網走市八坂にある東京農業大学オホーツクキャンパスを利用しました。参加者もひと時、学生気分に戻れたのではないのでしょうか。

テーマとした博物館法改正は、令和元年11月に文化庁の文化審議会に博物館部会が設置されて議論がなされ、昨年12月に答申されたもので、内容は博物館登録制度や学芸員の資格制度等に関するものです。北海道博物館協会学芸職員部会からも意見書が提出され、札幌市で昨年開催された第69回全国博物館大会でも議論されたことは記憶に新しいのではないのでしょうか。令和4年の年明け早々には、日本博物館協会主催の緊急フォーラム「文化審議会答申『博物館法制度の今後の在り方』を読み解く」も開催されています。

研修会では、東京農大の宇仁義和教授に座長を務めていただき、一連の議論の要点をまとめて話していただきました。博物館法は、学芸員の法的位置づけの根幹にある大切な法律でありながら時代に取り残されていることを改めて確認しま

した。一方、博物館法の上位法には従来の社会教育法だけではなく文化財保護法、文化芸術基本法と文化観光推進法も加わり、博物館は社会教育施設から文化施設へと進展し、社会的、地域的課題と向き合う場としての役割が答申されるとのことに、感嘆の声もありました。いずれにしても個別法である博物館法改正議論の動向を注視する必要を強く感じました。

新型コロナウイルス蔓延防止措置を踏まえ、また、広大なオホーツクを移動する時間を克服するため、はじめてオンライン(ZOOM使用)を併用した新しい形での研修会となりました。普段顔を合わせる機会の少ない会員とも交流する絶好の機会となりました。



研修会の様子

[オホーツク管内博物館連絡協議会
事務局長 柳谷 卓彦]

道東3管内博物館施設等連絡協議会 NEWS

道東3管内博物館施設等連絡協議会 の取り組み

道東地区では、令和3年10月7日～8日にかけて、帯広市を会場に道東3管内博物館施設等連絡協議会交流推進会議を実施しました。研修のテ

ーマを「地域博物館における調査・研究の意義と課題」と題し、初日は基調講演および事例報告を行ない、2日目は帯広百年記念館、帯広市児童会館、おびひろ動物園を見学しました。

初日の研修は帯広百年記念館で実施し、基調講演に小樽市総合博物館の石川直章館長をお招きして「博物館は必要なのか ミッションと地域社会での役割」の演題で講話いただきました。基調講演では、観光客と博物館入場者数との比較など

から小樽の博物館のあゆみの紹介があり、来館者や利用者の需要がどこにあるのか解明することの重要性や、コロナ禍下における博物館の役割についてお話をいただきました。

ついで伊藤彩子氏（帯広百年記念館）、乙幡康之氏（ひがし大雪自然館）、加藤ゆき恵氏（釧路市立博物館）、石渡一人氏（別海町郷土資料館）の4名の道東各地域の学芸員が登壇し、昨今取り組んでいる研究やその成果について報告しました。

続いて石川氏と4名の事例報告者に登壇いただき、持田誠氏（浦幌町立博物館）をコーディネーター役にディスカッションを行いました。持田氏より研究に際しての金銭や時間の確保、論文や展示など研究成果をどのように公表し活かしているかについて話題提供があり、登壇者を中心に活発な議論が行われました。

2日目は、先述の館園の見学を行ない、それぞ

れ山原敏朗百年記念館館長、渡辺誠克児童会館館長、柚原和敏動物園園長から、施設の近年の更新点などの紹介を受けました。

例年実施している交流推進会議ですが、本年度はコロナウイルス感染防止策を講じながらの開催でした。めまぐるしく変化する状況のなか「そもそも実施するべきか」「オンラインでの研修が可能か」などさまざまな可能性を考慮しながら企画し対面での開催に至りました。こうした状況下にありながらも、本稿で触れました登壇者や各館園長をはじめ、参加者各位の熱心な姿勢に助けられ、無事研修を終えることが叶いました。

ただ一点残念なことは、どうしても致し方のないことですが「夜の情報交換会」ができなかったことです。早くコロナウイルス流行が収束することを祈るばかりです。

[帯広百年記念館 大和田 努]

日本動物園水族館協会北海道ブロック NEWS

国内初、動物園条例の制定に向けて

過去の道博協ニュースでご案内のとおり、札幌市では、動物園の運営目的や実施すべき取組みを明らかにする、「(仮称)札幌市動物園条例」の制定を目指しています。この記事の執筆時点では、パブリックコメントを実施しており、市内外から条例に対して多くの意見が寄せられています。

動物園に関する条例を制定する必要性が生じたのは、生物多様性の保全への貢献や飼育動物の良好な動物福祉の確保など、動物園に求められる役割が大きく変化している中、日本には、動物園の運営目的や実施すべき事業を明記した法律がないためです。

一方で、海外には、動物園や水族館等（以下「動物園等」）の営業を規制する法律があり、法の下に生物多様性の保全や動物福祉の向上に向けた取組が実践されています。

そこで、日本動物園水族館協会（JAZA）においては、動物園等の社会的位置づけや使命を明らかにする「動物園水族館法案」の策定に向け、議論が進んでいます。これまで国に対して、動物園水族館法の制定を繰り返し要望していますが、進展はありません。そのような中で、本年6月の制定を目指している札幌市動物園条例

は、国や他都市に先駆けての制定となります。

一方、第69回全国博物館大会でも報告があったとおり、博物館法の見直しが進められています。これまで社会教育施設として運営されてきた博物館に対して、地域課題の解決や観光拠点など求められる役割が増えていることを踏まえ、登録制度についても外形的基準の審査から活動の内容や公益性の審査へ見直す検討が進められています。

札幌市動物園条例（案）においても、条例に沿った取組を行う動物園を「札幌市認定動物園」として認定し、各種支援を行う制度を盛り込んでいます。博物館法の見直しの方向と同様に動物園等の取組を盛り立て、底上げしていくことのできる制度設計を考えています。

円山動物園では、過去に誤った飼育方法によって動物の死亡事故を起こしてしまいました。この条例には、その反省の意味も込められています。円山動物園では、この条例を念頭に置いた運営を行うことで、生物多様性の保全への取組を進めていきます。

[札幌市環境局円山動物園
経営管理課長 佐々木 和規]

学芸職員部会 NEWS

これからの研修会

～オンラインとリアル～

コロナウイルス感染症の影響で、学芸職員部会研修会は2年続けてオンライン開催となりました。令和3年度は、当初から対面とオンラインを組み合わせた開催方法を検討していましたので、改めてオンライン配信の準備をすることもなく、むしろ運営側の手間は軽減されています。運営側にとって、オンライン開催は非常に「楽」であることも事実です。

研修を単に知識伝達の場と考えた場合、移動コストを伴わないオンライン研修会は大きなメリットがあります。1対多数の講義形式に限ればオンラインのデメリットはほとんどありません。参加者の反応が見えないことによる講師側の「やりにくさ」を除けば、受講者側に不利益はありません。

一方、多数対多数の雑多なコミュニケーションにおいて、リアル研修会には大きなアドバンテージがあります。部会研修会に対する強いニーズとして、他地域の学芸職員との情報交流があります。雑多な情報交流の中で日頃の活動を見直し、励ましあい、教えあうことは、多方向の対話を苦手とするオンライン環境では難しいものです。学芸職員部会では、多方向の情報交

流を求めてオンラインの「忘年会」なども企画してみましたが、リアル研修会のような高い密度の情報交流は難しいものでした。

こうした欠点を補うために、令和3年から月1回ペースのオンライン研修会を開催しています。会員が相互に講師となりながら、研究成果や取り組みの報告を続けています。一度きりの研修会で目的の達成が難しいのなら、数をこなすことによって情報交流の総量を拡大していこうという発想です。間もなく一年になるこの取り組みがどのような成果をもたらすのか予想は難しいものですが、広大な北海道ならばこそ、ポストコロナを見据えた新しい情報交流のあり方を探っていきたいと思います。



オンラインで行った
令和2年度バーチャルエクスカージョン
「今金町の地形と特産品巡検ツアー」

[学芸職員部会 石井淳平]

北海道青少年科学館連絡協議会 NEWS

令和3年度第56回北海道青少年科学館連絡協議会職員研修会の報告

令和3年12月14日(水)に、道科協加盟館のスタッフを対象とした令和3年度第56回北海道青少年科学館連絡協議会研修会を開催しました。

今年度の職員研修は、本来であれば開催館である稚内市青少年科学館のあります稚内市にて開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行が収束していない状況が続いているため都市間の往来が難しい事もあり、従来の対面形式で行う研修ではなく、オンラインソフト Zoom を用いた、オンライン研修とさせていただきます。

本研修は、前回、令和元年度に旭川市科学館にて開催された実験・実習発表会のように、各館で

日々実際に行われている実験・実習・体験事業や、各館で行われている独自の取り組みをオンライン上で持ち寄り発表し、情報共有することで今後の事業活動で活かす、というテーマで開催させていただきました。道内9館が参加し、各館にオンライン上で発表していただき、その後質疑応答を行うという形で開催いたしました。

当館としましても、オンライン研修会は初めての試みでした。そのため、用意していたマイクの音量が小さかったり、Zoomでの進行等つたないところがありましたが、各館参加者の皆様の協力により、滞りなく研修を行うことができました。各館の発表は、錯覚を用いたものや、過冷却の実験等バリエーション豊かなものであり、皆さん、説明するのも上手で、とても参考となりました。発表後の質疑応答の場でも各館、積極的に質問していただき、盛り上がりました。



稚内研修

新型コロナウイルス感染症の流行が続くコロナ禍の中で、オンラインという形ではありますが、顔を合わせて、研修会を開催することができたことは良かったと思います。参加館の皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。

今後も研修会や情報交換会を通じて、各館での事業活動を盛り上げ、来館者の皆さんに科学について気軽に楽しく学べる機会を提供できるよう努めていきたいと考えております。

[稚内市青少年科学館 金野拓也]

北海道美術館学芸員研究協議会 NEWS

秋特別展 砂澤ビッキ展

「遊 動物とビッキ」の開催

本展では当館所蔵作家の新たな一面に触れる機会の創出を目的としたテーマ別の展覧会を年に1回行っています。同様の企画は指定管理時代(2013~2018年)から行っていましたが、町直営再開の2019年からは、特に砂澤ビッキについて1階の常設展示と合わせて2階展示室も使った展覧会を始めました。今年度で3回目となります。今回はビッキの描いた「動物」をテーマに、遺されたスケッチと彼が動物と触れ合った日々が記録された写真による展示を行いました。

当館は旧洞爺村(~2006年)時代の役場庁舎を一部改装した建物で、2階中央にある展示室の窓からは洞爺湖が一望できます。通常、展示室に窓はなくあっても覆うことが一般的かと思いますが、昭和の時代を色濃く残した木枠の窓の存在も作用し、絵画のようにも感じる美しい洞爺湖の変化や四季の移ろいは隠さず、美術作品と景色が共存する空間の在り方について日々模索しています。小さな美術館は上記の理由もあり展示可能なスペースは限られてしまいます。

今回の企画に向けて調査した動物スケッチは約250点あり、全てのスケッチを展示することは

不可能です。そこで、公立はこだて未来大学の協力のもと、スケッチのデジタル化を行い、動画による展示を行いました。来場者と1枚ずつのスケッチが静かに対話し続けることをイメージしたため、描写された動物などによるカテゴリー分けなどは一切行わない約20分の動画となりました。動画によって拡大されたスケッチは、ビッキの迷いの無いリズムカルな筆の動きを原画以上に認識することができ、ストーリーがないことで描写そのものに注目させることができました。

本展を通して、常設の大型の彫刻作品などからイメージする雄大で力強いビッキ像と異なるユーモラスで優しさあふれる新たな一面をご紹介できたのではないかと思います。



[洞爺湖美術館 山本みどり]

イベント情報

会員館園の主な企画展と普及行事等 2022年4月～9月

詳細は各館園にお問い合わせください

石狩

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

期間	タイトル
4/17	野外講座「石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物」

小原道城書道美術館 (011-552-2100)

期間	タイトル
4/7～8/31	企画展「女性の書画展～江戸から昭和まで」
8/2～11/30	企画展「近現代中国書法家作品展（仮題）」
毎月第2土曜日(予定)	ギャラリートーク 講師・演題：未定

北広島市エコミュージアムセンター知新の駅 (011-373-0188)

期間	タイトル
4/28～11/3	史跡旧島松駅通所の公開

さけのふるさと千歳水族館 (0123-42-3001)

期間	タイトル
3/1～5/31	サケ稚魚の放流体験

札幌オリンピックミュージアム (011-631-2000)

期間	タイトル
4/29～6/30	特別展「北京オリンピック・パラリンピック報道写真展」
8/11	「山の日イベント」
未定(6月)	「オリンピックデーイベント」
未定	「大倉山・宮の森ジャンプ競技場往復ノルディックウォーキング」

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

期間	タイトル
4/19～6/28	特別展「PIXARのひみつ展」
7/16～9/11	特別展「銀の匙 Silver Spoon 展」
9/23～10/10	特別展「北海道の建築（仮）」

サッポロビール博物館 (011-748-1876)

期間	タイトル
未定	未定

北海道博物館 (011-898-0456)

期間	タイトル
2/19～5/22	企画テーマ展「アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－」
4/9	自然観察会「エゾアカガエルのラブコールを聴こう」
4/16	企画テーマ展関連行事

	ミュージアムカレッジ「学芸員が語る！第19回企画テーマ展の見どころ」
5/5	企画テーマ展関連行事 特別イベント「石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！」
5/7, 28, 6/18, 7/9, 30, 8/20, 9/10	「ちゃれんが古文書クラブ（全12回）第1回～第7回」
5/15	企画テーマ展関連行事 ちゃれんがワークショップ「アンモナイト折り紙で学ぶ 生物の「かたち」の不思議」
5/29	ミュージアムカレッジ「じっくり聴こう！アイヌの音楽」
6/12	ちゃれんがワークショップ「北海道林業と建築の道具—スケッチをしてみよう！—」
6/18	自然観察会「初夏の森で花をさがそう（北海道フラワーソン連携企画）」
6/25, 26	特別イベント「北海道ジオパークまつり 2022」
7/10	子どもワークショップ「小さな野球盤づくり」
7/23～9/25	特別展「「世界の昆虫」—昆虫を通して、生き物の多様性を知る—」
7/23	特別展関連行事 講演会「昆虫はおもしろい！！」
7/24	特別展関連行事 子どもワークショップ「子ども昆虫教室」
8/7	子どもワークショップ「アイヌ音楽 うたって・おどって・ならして」
8/14	特別展関連行事 子どもワークショップ 「羊毛フェルトの昆虫ストラップ（仮）」
8/20	特別展関連行事 子どもワークショップ 「草原の主・トノサマバッタをさがそう」
8/28	子どもワークショップ「やってみよう、ステンシル！」
9/18	子どもワークショップ「糸電話・風船電話で、もしもし コンニチハ」
9/24	自然観察会「木の実・草の実の不思議をさがそう」
9/25	ミュージアムカレッジ「「民族音楽学」入門」

北海道立近代美術館 (011-644-6882)

期間	タイトル
4/16～6/26	特別展「日本画画家 羽生輝展 悠久の岬を望む」
4/17	講演会「対談 羽生輝・奥岡茂雄」
4/22～6/26	特別展「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」
7/10～8/21	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展」
7/10～8/21	近美コレクション「時間をめぐって／新収蔵品展／没後100年 中原悌二郎展」
7/10	講演会「モエレ沼とライデン：ピラミッドからさぐる古代エジプト文明の美の世界」
7/30	講演会「棺を読む—かたちと装飾の移り変わり」
9/3～10/30	特別展「聖徳太子1400年御遠忌記念 国宝・法隆寺展」
9/3～11/7	近美コレクション「『北の美のこころ』を携えて／現代ガラスの美」

北海道立文学館 (011-511-7655)

期間	タイトル
4/1～3/31	常設展「北海道の文学」
4/9～7/3	常設展「アーカイブ「生誕100年 三浦綾子の世界」」
4/16～6/5	ファミリー文学館「花・彩々—文学の中に咲く—」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日手作りコーナー「こいのぼりをつくろう！」」
5/5	わくわく～こどもランド「こどもの日スペシャル「人形劇」」
5/12, 6/9, 7/14 8/11, 9/8	月例朗読会「北の響～名作を声にのせて」
5/22	映画鑑賞「風と樹と空と」
6月, 9月	「ぶらり文学散歩」
6/5, 7/3, 9/4	わくわく～こどもランド「絵本の読み聞かせ」ほか
6/18～8/14	特別展「地図と文学の素敵な関係」

7/1～9/11 (募集期間)	第17回北海道小・中・高生短歌コンテスト
7/9～9/4	常設展「アーカイブ「地図の楽しみ」」
7/31	わくわく～こどもランド「手作り教室・サマーブックをつくろう！」
7月下旬 又は8月上旬	夏休み文学道場「中・高生のための創作講座」
8/7	わくわく～こどもランド「夏休みスペシャル」
8/27～10/23	特別展「金子みすゞの世界」
8/28	映画鑑賞「未定」
9/17～10/23	常設展「アーカイブ「文学者たちの愛した品々」」
9/23	イベント「文学館まつり」

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

期間	タイトル
5/21, 22	イベント「アースデイ in 円山動物園」
8/5～8/14	イベント「夏の特別企画展」

空知

赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設 (0125-74-6505)

期間	タイトル
未定	未定

美唄市郷土史料館 (0126-62-1110)

期間	タイトル
4/23	体験講座「お花のウエルカムボードを作ろう！」
5/14～6/5	企画展「ゆかりの作家展」
5/15, 6/19, 7/17 8/21, 9/18	映画上映「なつかしの映画上映会」
5/28	コンサート「ハンマーダルシマーコンサート」
7/8～9/4	特別展「美唄湿原を歩く～息づく ^{いのち} 花々～」
7/23, 8/7	映画上映「夏休み子ども映画会」
7/30	体験講座「火起こし体験」
8/6	体験講座「勾玉づくり」
8/20	講演会「特別展関連講演会「美唄湿原の植物」(仮称)」
8/27	コンサート「ギターコンサート」
9/3	コンサート「二胡とピアノと歌コンサート」
9/10～9/25	企画展「アイコン塾展」
9/24	体験講座「アートチャレンジ①チョーク」

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

期間	タイトル
3/5～5/8	企画展「きらめくアンモナイト」
4/29～5/1 5/3～5/5	普及行事「化石博士になろう！2022GW(仮称)」
7/16～10/10	特別展「翼竜と鳥類の進化(仮称)」

8/13～8/15	普及行事「化石博士になろう！2022 夏（仮称）」
-----------	---------------------------

安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄 (0126-63-3137)

期間	タイトル
4/20～5/9	展覧会「安田侃シルクスクリーン展」
8/10～8/22	展覧会「思い出の炭鉱写真展」
9/1～9/27	展覧会「アルテピアッツァ美唄 30周年記念 安田侃彫刻展（仮）」
毎月第1土日 (5月のみ第2土日)	ワークショップ「こころを彫る授業」

後志

岩内町郷土館 (0135-62-8020)

期間	タイトル
4/16～6/12	第一回企画展「郷土館お宝・珍品展 part8『有島武郎と白水会 100周年』」
4/24	第一回歴史講座「有島武郎没後 100年と岩内白水会」
6/25～8/28	第二回企画展「岩内のアスリートたち」
9/10～11/23	第三回企画展「日本一のタラコを作った岩内～海産物の歴史～」

小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

期間	タイトル
4/2～7/28	運河館トピック展「日本鉄道 150年 鉄道模型に見る蒸気機関車の発展」
4/23～6/30	企画展「おたるの『春』もっと、みつけた」

おたる水族館 (0134-33-1400)

期間	タイトル
3/12～11/27	特別展「生き物の不思議」
7/16～7/18	夜の水族館（夜間営業）
9/17～9/19	
9/23～9/25	

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

期間	タイトル
2/18～7/10	展覧会「おやこで楽しむ展覧会「点と線のうちゅう展」」
2/18～7/10	展覧会「春から夏の展覧会「西村計雄のスケッチブック」」
4/29～7/10	教育普及「展示作品人気アンケート」
5/3	教育普及「美術館探検会」
6/25	イベント「西村計雄生誕記念コンサート」
7/16～9/25	展覧会「夏から秋の展覧会「しりべし！」」
7/16～9/25	展覧会「第21回 しりべしミュージアムロード共同展」
7/17	無料開放「北海道みんなの日 無料開放」

余市水産博物館 (0135-22-6187)

期間	タイトル
未定	第46回余市水産博物館特別展

渡島

函館市縄文文化交流センター (0138-25-2030)

期間	タイトル
4/23	普及「春の縄文染め」
6/4, 18	普及「鹿角釣り針づくりと海釣り体験」
7/30	普及「海浜学習」
8/6	普及「竪穴住居のジオラマをつくろう！」
8/27	普及「土器づくり体験」(全2回:1回目)
9/24	普及「土器野焼き体験」(全2回:2回目)

森町公民館 郷土資料室 (01374-2-3479)

期間	タイトル
なし	なし

胆振

苫小牧市美術博物館 (0144-35-2550)

期間	タイトル
4/29～6/26	企画展「アイヌ刀—エムシ・タンネパイコロ・タクネパイコロ—」
4/29～6/26	収蔵品展「動物の絵」
7/16～8/28	特別展「芸術の都ウィーンとデザインの潮流」
9/17～11/6	特別展「《芽の出る音》設置 50 年記念 谷内六郎展」

日高

アポイ岳ジオパークビジターセンター (0146-36-3601)

期間	タイトル
5月～10月	自然観察会「ブラアポイ」(月に4回程度の施設周辺の自然観察会)

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 (01457-2-2892)

期間	タイトル
4/1～5/22	企画展「アイヌ伝統工芸のわざ～コロナ禍の博物館活動～」

上川

旭川市博物館 (0166-69-2004)

期間	タイトル
4/23～5/29 (予定)	第93回企画展「あさひかわの縄文遺跡」(仮)
7/16～8/28 (予定)	第94回企画展「まちのあゆみ・暮らしの移りかわり」(仮)
9月	イベント「アイヌ文化ふれあいまつり」

士別市立博物館 (0165-22-3320)

期間	タイトル
4/29～5/5	講座「大型連休企画」
5月	講座「春の自然観察会」
5月	講座「自然創作体験」
6月～8月	企画展「森脇啓好写真展～エゾリスの四季」
6月	講座「夏の自然観察会」
8月	講座「考古学体験講座」
9月～11月	企画展「士別と流行病」
9月	講座「秋の自然観察会」
9月	講座「地質めぐり」
9月	講座「歴史探訪」
通年	講座「古文書教室」

土の博物館 土の館 (0167-45-3055)

期間	タイトル
未定	未定

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

期間	タイトル
4/23～6/26	特別展「美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」
4/23～6/26	常設展「木の造形」クロニクル
4/23	こども工作ワークショップ「ゆらゆら遊ぼう！ヤジロベエ作り」
4/24, 29	特別展関連「図書館×美術館「絵本のよみきかせ会」」
5/26, 6/21	
5/21, 6/4, 5	解説「30分でわかる！学芸員のみどころ解説」
5/29	こども工作ワークショップ 「「ちびっこデザイナーのこだわり絵本バック」～色の世界～」

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-46-6277)

期間	タイトル
2/11～7/3	企画展「素材へのアプローチー中原悌二郎賞受賞作家の金属彫刻からー」(本館)
2/26～5/29	収蔵品展「樹木との対話ー北の彫刻家たちー展」(ステーションギャラリー)
7/16～8/28	企画展「旭川彫刻フェスタ 20周年記念展(仮)」(本館・ステーションギャラリー)

富良野市博物館 (0167-42-2407)

期間	タイトル
未定	未定

宗谷

オホーツクミュージアムえさし (0163-62-1231)

期間	タイトル
4/1～5/8	特別展「わたしたちの枝幸の自然写真展」

オホーツク

博物館 網走監獄 (0152-45-2411)

期間	タイトル
5/1～8/30	企画展「近代監獄の誕生と建築家山下啓次郎」
5/3～5/5	特別イベント「ゴールデンウィークイベント」
6/12	体験講座「経木のモビール作り」
7/31	体験講座「大工道具で椅子作り」
8/7	年中行事「七夕」
9/1～12/30	企画展「大正・昭和戦前の監獄建築の変遷」
9/10	年中行事「十五夜」
9/18, 19	特別イベント「博物館網走監獄収穫祭」

美幌博物館 (0152-72-2160)

期間	タイトル
3/27～10/24	特別展「びほろ町4公園の草花図鑑」
4/15, 16	プチ工房「虫よけキャンドル!? オニヤンマくん」
5/5	イベント「こどもの日記念行事」
5/20, 21	プチ工房「寄せ木の一輪挿し」
5/28	体験会「ブラ博物館 古梅編」
6/3, 4	プチ工房「キャンドルホルダー」
6/25	体験会「植物標本を作ってみよう！」
7/2～10/5	ロビー展「すごい標本! すごい資料!!」
7/16	体験会「植物画に挑戦！」
7/23	講演会「シマフクロウ」
7/29, 30	プチ工房「ステンドうちわ」
8/5, 6	プチ工房「ミニいかだ」
8/20	講演会「日本人は昆虫がお好き？」
9/10	体験会「まちの色で描く型染めパネル」
9/23, 24	プチ工房「やってみよう! 草木染め」

北網圏北見文化センター (0157-23-6742)

期間	タイトル
7月～8月	美術企画展「ルーブル美術館の銅版画展」

北海道立オホーツク流氷科学センター (0158-23-5400)

期間	タイトル
3/26～4/24	写真展「オホーツク物語 3 ～16のレンズに映る世界～」
4/29～5/8	GW イベント
5月	湧別カメラクラブ写真展
6月	全国流氷絵手紙交流展
7/17	紋別わくわく科学教室
7月～8月	夏のギザまつり
8月	わいんどトレック
8月～9月	企画展「アート&サイエンス 海の生き物と鉱物」 (仮)

北海道立北方民族博物館 (0152-45-3888)

期間	タイトル
4/16～5/15	ロビー展「暖かいだけじゃない！毛皮と北方民族の多彩な関係」
4/16	講座「毛皮と北方民族」
4/24	館長講座「環境に優しい北方文化：トナカイ毛皮のリサイクル」
5/3～5/5	ゴールデンウィークイベント
5/7	講座「カザフの手工芸」
5/8	シアター春
5/14	はくぶつかんクラブ「北方の言語であそぼう」
5/21～6/19	ロビー展「写真で振り返る日本のアラスカ調査2」
5/21	講座「ラポロアイヌネーションのこれまでとこれから」
5/28, 29	講座「動物の毛皮に触ってみよう」
6/11	講座「アラスカ調査の日々」
6/12	講座「日本人研究者のアラスカ先史時代研究：その展開ダイナミズム」
6/18	はくぶつかんクラブ「シラカバの皮のランプシェード」
7/2	講習会「白樺樹皮でつくるミニマット」
7/16～10/16	特別展「イヌイトの壁掛けと先住民アート」
7月中旬	講習会「美術史からみた先住民アート」
7/30	はくぶつかんクラブ「皮でつくるタオルかけ」
8/6	はくぶつかんクラブ「土器づくり」
8/21	シアター夏
9/4	講座「古代岩画に魅せられた人々」
9/10	はくぶつかんクラブ「ビーズ織りでつくるキーホルダー」
9/17	講座「特別展解説講座」

十勝

足寄動物化石博物館 (0156-25-9100)

期間	タイトル
4月	「探鳥会」
5月	「探鳥会」
5月	地質の日記念イベント「石はみがくと玉になる」
6月	「化石教室」
7月	「化石教室」

浦幌町立博物館 (015-576-2009)

期間	タイトル
3/1～4/13	企画展「コロナな時代を語り継ぐために 2022」
4/13～5/8	企画展「アイヌ伝統文化作品展」
4/29	野外博物館「ウラホロイチゲ観察会」
5/8	野外博物館「青い鳥観察会」
5/18	国際博物館の日記念講座「博物館の力」
5/21～6/26	企画展「かし和家の歴史展」
6/18	野外博物館「北海道フラワーソン 2022」
7/30～9/25	企画展「アイヌ民族の現在「ラポロアイヌネーション」展」
7/30	企画展関連講座「展示解説「ラポロ展」」

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

期間	タイトル
4/16～5/8	ロビー展「五月人形展」
4/22～5/8	企画展「過ぎ去りし街角 荘田喜與志の見た帯広ふたたび」
4/23	博物館講座「北海道の縄文土器を世界に語る」
5/21	博物館講座「百年記念館友の会講演会南極とジオパーク」
6/18	博物館講座「十勝の化石から広がる地球と生き物の進化の世界」
6/25～7/18	収蔵美術作品展「百年記念館 40年のアートコレクション展」
7/16	博物館講座「博物館展示を通して考える『アイヌ文化』」
7/23, 8月上旬	体験教室「つくってみよう縄文土器」
8/6	自然観察会「発見！アイヌ文化と動植物」
8/13～9/19	特別企画展「帯広開拓140年・市政施行90年記念 特別企画展 晩成社展」
8/27	博物館講座「史料が語る晩成社の140年」
9/10	博物館講座「晩成社の「何故」を解き明かす」
9/17	博物館講座「ぶらり帯広」
5月～10月	連続講座「地質講座「十勝のジオツアー」」

上士幌町ひがし大雪博物資料館 (ひがし大雪自然館) (01564-4-2323)

期間	タイトル
4/1～10/31	企画展「夏鳥展」
5月	自然館講座「糠平湖の植物化石」
5/15	自然観察会「野鳥編 in 糠平」
5/29	自然観察会「野鳥編 in 三股」
6/1～6/30	ロビー展「「自然の宝庫上士幌」展」
6月	自然館講座「糠平周辺の植物」
7/3	自然観察会「昆虫編」
7/23, 24, 30, 31 8/4～7	むしむし WEEK「むしむし講座（昆虫の観察と採集と標本づくり）」
7/23, 24, 30, 31 8/4～7	むしむし WEEK「ライトトラップ体験」
7月・8月	自然館講座「昆虫」
8/28	親子自然観察会「親子昆虫観察会」

神田日勝記念美術館 (0156-66-1555)

期間	タイトル
11/26～4/10	展覧会「2021年度コレクション展Ⅱ「絵画に描かれた十勝」」
11/26～4/10	展覧会「神田絵里子 風景画展」
4/13～6/26	展覧会「神田一明、日勝展」
6/30～9/19	展覧会「コレクション展Ⅰ」
9/23～12/11	展覧会「加藤かおり展」
年4回	「アート・キッズ・クラブ」

広尾町海洋博物館 (01558-2-0181)

期間	タイトル
なし	なし

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

期間	タイトル
4/16～6/26	特別展「帯広美術館コレクション アートの中の風景」
4/16～6/26	コレクションギャラリー「版画 1970年代」
4/16	展覧会関連事業「ギャラリー・ツアー」
5/14	展覧会関連事業「キッズ・ツアー」
5/28	展覧会関連事業「ギャラリー・ツアー」
7/9～9/4	特別展「竹久夢二 小林かいち グラフィック黎明期の抒情と詩情」 <small>リスム ポエジー</small>
7/9～9/4	コレクションギャラリー「新収蔵品展 荒井善則作品と荒井コレクション」
7/9	展覧会関連事業「美術講演会」
7/23	展覧会関連事業「ギャラリー・ツアー」
8/6	展覧会関連事業「キッズ・ツアー」
8/20	展覧会関連事業「ギャラリー・ツアー」

忠類ナウマン象記念館 (01558-8-2201)

期間	タイトル
9/10～9/25	企画展「三島樹一彫刻展」
未定	講座「こども化石発掘体験教室」
未定	講座「アンモナイトレプリカづくり講座」

釧路**厚岸町海事記念館 (0153-52-4040)**

期間	タイトル
6/4～7/24	巡回展「かるたでよみとくわたしと世界のつながり」
9/10～10/2	巡回展「宇宙をさわる」

釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)

期間	タイトル
3/25～4/5	企画展「春休みイベント 2022 つくってあそぼう！オリジナル紙ヒコーキ」
4/23	普及行事「星空キャラバン「きれいな星空と春の夫婦星（めおとぼし）」」
4/29～5/5	企画展「GW イベント 2022 「木木（もくもく）ひろば」」
6/19 予定	普及行事「太陽観測会「太陽の素顔を探れ！」」
7/27～8/21	企画展「夏休みイベント」
9/1～9/30	企画展「宇宙月間」

釧路市立博物館 (0154-42-5809)

期間	タイトル
3/12～5/27	ミニ展示「人面蛾～ヨーロッパメンガタスズメが来るまでの道～」
4/16～7/3	企画展「釧路湿原のキタサンショウウオ（仮）」
4/16・17	展示解説「ようこそ釧路へ」
4/17, 5/15, 6/19 7/17, 8/21, 9/18	観察会「春採湖畔探鳥会」
5/1（予定）	体験講座「竪穴住居で屋根ふき体験」
5/3～5/5	体験講座「博物館であそぼう」

5/21, 6/18, 7/16 8/20, 9/17	観察会「春採湖畔草花ウォッチング」
5/29	観察会「初夏の探鳥会」
6/11, 7/9 8/13, 9/10	観察会「しらべてみよう春採湖の昆虫」
7/9～10/16	企画展「湿原の王国・道東（仮）」
9月中旬	体験講座「竪穴まつり」
9/25（予定）	体験講座「博物館まつり」

弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民族資料館 (015-482-2948)

期間	タイトル
4/10～11/30	体験「アイヌ文様刺繍体験（コースター）」
4/10～11/30	体験「アイヌ文様切り絵体験」
未定	企画展「松浦武四郎特別展」
未定	企画展「ウポポイ特別展」
未定	講演会「開館40周年記念特別講演会」

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

期間	タイトル
4/23～6/19	「日本の洋画 130年 具象表現の栄光」
4/23～6/19	新収蔵展示 「木島誠悟の絵本原画・毛綱毅曠の設計図」
4/30	アートシネマ館「僕たちの家に帰ろう」
5/28	アートシネマ館「手紙」
6/1, 8, 15	「大人の家庭科&お気軽アート教室」 ※テーマ別の3講座
6/18	アートシネマ館「ゴールデン・リバー」
7/9～9/4	「ヨーロッパ版画の花束 北海道立近代美術館 友田コレクションを中心に」
7/9～9/4	「いきものの王国 岩合徳光・動物記」
7/27～8/21	「夏のキッズ・アトリエ」
7/30	アートシネマ館「燃ゆる女の肖像」
8/27	アートシネマ館「ぼくの好きな先生」
9/10	パフォーミング・シアター2022「ポケットサーカス」
9/17～11/23	「祈りの造形 ^{かたち} 地域の記憶 厚岸・国泰寺の200年」
9/24	アートシネマ館「ロング, ロングバケーション」

根室

標津町ポー川史跡自然公園 (0153-82-3674)

期間	タイトル
なし	なし

事務局からのお知らせ

■会費納入のお願い

当協会の活動は会員の皆様の負担金（会費）で運営されています。年会費は、団体会員 15,000 円、賛助会員 20,000 円、個人会員 3,000 円です。今年度分会費を未納の方は、以下の口座までお願いいたします（振込手数料はご負担くださいますようお願い致します）。

【銀行口座：北洋銀行厚別中央支店（普）0287000 北海道博物館協会会長 石森秀三】

【郵便振込口座：02770-2-29419 北海道博物館協会】

■2022 年度の北海道博物館大会について

第 60 回北海道博物館大会は、2022 年 7 月 14 日（木）と 7 月 15 日（金）に士別町で開催予定です。お目にかかれましてを楽しみに。

■一年間臨時職員として事務局の仕事をしてくださっていた岡田えみりさんが、退職します。感染症の影響もあり、会員の皆様にお目にかかる機会が乏しかったのは残念です。4 月からは愛知県内の会社に就職されますが、北海道に帰省される折などには博物館めぐりを楽しんでほしいと思います。お元気で！

（事務局一同）

■北海道博物館協会ホームページ <https://www.hkma.jp/>

■学芸職員部会ホームページ「集まれ！北海道の学芸員」 <http://www.hk-curators.jp/>

道博協ニュース 第 130 号

発行日 2022 年 3 月 日

発行者 北海道博物館協会

北海道博物館協会事務局

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌 53-2 北海道博物館内

電話：011-898-0456

メールアドレス：dohakukyo.jimukyoku@gmail.com